

入学式の「学校長式辞」(前編)です。

4月7日(木)、「茨城県立並木中等教育学校 第9回入学式」を挙げていたしました。今号と次号(第3号)で「学校長式辞」の全文を掲載します。2086字・約10分間の式辞です。印象派を代表する画家「クロード・モネ」が登場する個性的な式辞を書きました。よろしければ、ご一読ください。

◆4月7日の入学式での「学校長式辞」—前編—◆ テーマ:「モネに学ぶ」 式辞

- 春の暖かな日差しを受け、生命の躍動する明るく清らかな季節となりました。本日ここに、多くのご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、**並木中等教育学校第9回入学式**を挙げてできますことは、私どもとしまして大きな喜びであり、本校教職員を代表して深く感謝申し上げる次第でございます。
- ただいま入学を許可いたしました**160名**の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの希望に満ちた笑顔がとてもまぶしく感じられます。私たち教職員をはじめ、在校生全員が、皆さんの入学を**心まち**にしていました。
- また、これまでお子様の成長を温かく見守ってこられた保護者の皆様、ここに晴れて中等教育学校入学という節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。
- さて、**開校9年目**を迎えました本校では「**Be a top learner!**」を掲げ、「人間教育」「科学教育」「国際理解教育」を柱とした**六年一貫**の教育を行い、日本の未来、さらには世界の未来を担う、グローバルリーダーの育成に取り組んでおります。
- 今ここにいる新入生の皆さんは、高倍率の入学選抜という試練を乗り越えて、見事合格の栄冠を勝ち取りました。そのような皆さんのこれからの活躍を期待して、一人の画家の話をしたいと思っております。その画家の名は、**クロード・モネ**。1840年、フランスのパリで生まれた、**印象派**を代表する画家です。モネの名前は知らなくても、池に浮かぶ「**睡蓮**(すいれん)」の絵を見たことがある人は多いと思っております。
- 昨年秋、上野の東京都美術館で「**モネ展**」がありました。10代の頃から86歳で亡くなるまでの作品、約90点が展示されておりました。特に、**1872年**に描かれた「**印象・日の出**」という絵は、とても美しかったです。実は、この絵のタイトルが、「**印象派**」という絵画グループの呼び名の由来となったのです。西洋絵画を代表する歴史的な一枚なのですが、発表当時、大変評価が低かったそうです。それは、港で見た日の出の様子を、下書きをせず短時間で素早く描き、**筆あと**を残していたからです。当時、評価が高かった絵は、綿密な下書きののちに時間をかけて丁寧に描き、筆あとを一切残さない絵でした。
- 私は、**展覧会**に行った際、モネの世界的研究者である、**マリアンヌ・マチュー**さんの講演も聴きました。講演会の中で、「なぜモネを研究されているのですか。」と質問した方がいました。マリアンヌさんは「モネは、年と共に作風が次々と変化しています。また、同じモチーフを異なった**時間**、異なった**光**のもとで何枚も描いています。そのような、モネの**探究心**、**学び続ける姿勢**が好きで、長年研究をしています。」という回答でした。
- ここで、私から、新入生の皆さんに**3つのこと**を伝えたいと思っております。 (次号に続く)

